

川崎生命科学・環境研究センター（L i S E）の開所

（平成25年3月）

本市では、再国際化された羽田空港の対岸に位置する殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント（※1）」において、国際社会の課題解決に貢献しながら我が国経済の持続的な成長を牽引するライフサイエンス（※2）・環境分野の国際的先端研究開発拠点の形成に取り組んでいます。

この拠点形成を先導する施設の第1段階として、平成23年7月には「実験動物中央研究所 再生医療・新薬開発センター」を開設し、今回、第2段階として「川崎生命科学・環境研究センター（L i S E）」を開設しました。また、この施設には、本市の健康安全研究所と環境総合研究所が入居しています。

<議会での審議経過と市の取り組み>

文中の施設名称について

仮称

決定した名称

仮称産学公民連携研究センター → 川崎生命科学・環境研究センター（L i S E）

仮称健康安全研究センター → 健康安全研究所

【平成22年 第1回定例会（3月）】

質問

仮称産学公民連携研究センター内に平成24年度中に開設を目指す仮称健康安全研究センターの機能面での特徴は。



〔健康安全研究所 微生物機器室〕

答弁

新型インフルエンザを初め、感染症への対策強化として、総合的に地域の発生動向の情報の把握と分析を行い、平常時には予防対策を、発生時には感染経路を究明するなどして蔓延防止の対策を図っていきます。また、今後は、羽田空港国際化に伴う輸入食品の増大や外国人旅行者の増加による感染症リスクの高まりに適切に対応するため、川崎検疫所などの国の機関との連携を強化していきたいと考えています。

取り組みとしては・・・

- 本庁にあった感染症情報センター機能を健康安全研究所に移管したことにより、情報収集・解析・発信体制を強化しました。さらに、各種検査機器を整備したことにより、国内外で広域に発生する感染症や食中毒に対しても、迅速な検査や各地域との技術的連携が可能となり、より専門的で高度な対応ができるようになりました。
- 健康安全研究所は、隣接する（公財）実験動物中央研究所、医科大学などと、再生医療関連の共同研究を、また、地元企業とは食中毒原因病原体の特定を迅速化する検査技術の開発についての共同研究を始めています。

【平成22年 第1回定例会（3月）】

質問

環境総合研究所は、公害研究所など既存3機関の統合にとどまらず、より広範に環境研究・開発を目指すとしていますが、具体的な内容は。

答弁

環境総合研究所は、公害研究所、公害監視センター、環境技術情報センターの3つの事業所を統合し、国連環境計画（UNEP）や国立環境研究所、また大学や企業等との連携を図りながら、環境の総合的な研究を行う拠点として整備します。また、研究所に導入する主な機能として、①低炭素まちづくりなど都市と産業の共生に向けた研究、②川崎のすぐれた環境技術の移転など国際環境施策の推進、③環境技術情報の収集と発信、④環境改善と環境汚染の未然防止のための監視、調査、研究、⑤多様な主体と連携した環境教育・学習という5つを検討しています。

取り組みとしては・・・

●環境総合研究所での新たな研究の取り組み

- ・生物を使って様々な化学物質の複合的な影響を調べる生態影響試験を行っています。（生物学的試験室）
- ・大気・水環境中の分解しにくい有害化学物質の分析及び調査を行っています。（高精度分析室・機器室）



環境総合研究所
高精度機器室

【平成22年 第4回定例会（9月）】

質問

総合特区制度について、国が予定している特区認定を受けることによる本市や研究者への具体的なメリットは何がありますか。

答弁

本市にとっては、立地企業等に対する設備投資減税等の優遇措置により研究機関や企業の立地が促進され、大きな投資効果が見込まれています。また、研究者にとっては、医療、薬事、入国管理等に関する規制緩和により革新的な医薬品、医療機器等の開発促進が期待されています。

国際戦略総合特区は、本市を含め全国7地域で指定されました。（平成23年12月）

ホームページ（内閣府地方創生推進事務局）

総合特区一覧 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/sogotoc/toc_ichiran/index.html

【平成24年 総務委員会（11月）】

質問

以前、企業集積を図って成功しているフランスのソフィア・アンティポリスを視察しました。そこでは、研究者同志が交流できるクラブを作り、食事は必ず決められた食堂を利用するよう義務付けて、いわば交流を制度化していました。今回、LiSEにカフェを作ることで、どのような効果を生むと考えていますか。

答弁

先端的な研究施設においては、産学公民の連携が促進されることが重要だと考えています。カフェでの食事や会話を通して、いろいろな新しい連携が生まれてくるのではないかと考えています。

取り組みとしては・・・



●1階のカフェをはじめ、全フロアに共用の打合せ場所として利用できる研究者の相互交流スペースを設けています。交流が生まれることにより、研究活動がさらに促進されます。



就労支援施設でもあるカフェでは、障害のある方たちが働いています。

川崎生命科学・環境研究センター (L i S E)

Life Science & Environment Research

◆所在地 川崎市川崎区殿町三丁目 25-13

◆交通 京急大師線 小島新田駅から徒歩 15 分
羽田空港から車で約 1 1 分



1階アーカイブスペース
市の環境情報等を発信

吹き抜け空間

天窓からの自然採光や、冬期には上部の熱気を暖房に利用するなどの環境に配慮しています。



ホームページ

川崎生命科学・環境研究センター (L i S E)

<http://kawasaki-lise.jp/>

【2階】健康安全研究所 【3階】環境総合研究所

【4階】レンタルラボ（貸し研究室）（平成25年5月現在入居の企業）

臨床検査受託分野の大手企業や、機能性食品や再生医療分野の有効性試験の受託企業、県内の科学技術の振興や地域中小企業を支援するために神奈川県が設立した公益法人などのライフサイエンス・環境分野の先端的な企業・研究機関等を誘致

<用語の解説>

※1 キング スカイフロント (KING SKYFRONT)

KING は Kawasaki INnovation Gateway の頭文字と殿町の地名に由来し、SKYFRONT は対岸の羽田空港に面していることを表している。また、キング スカイフロントが日本の成長を牽引し、世界の持続的な発展に貢献する拠点であるという意味がこめられている。平成23年3月に名称決定。

※2 ライフサイエンス

科学技術を活用した、医療や健康など、人間の生命に関わる分野の研究開発。医療技術の発展や健康関連産業の海外市場への展開など、今後成長が期待される領域。生命科学。